

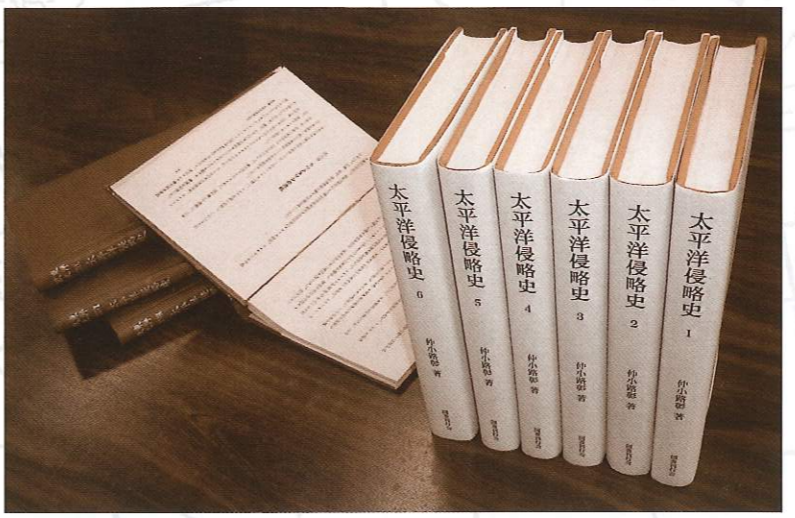
**第二次世界大戦後の世界を驚くべき正確さで予言
地球主義を唱え、アラブ・イスラーム大博覧会、
未来のための総合エネルギー展覧会も計画…**

不世出の哲人
仲小路彰プロフィール

明治三十四年（一九〇一年）東京に生まれる。夏目漱石に憧れ熊本旧制五高に。同窓に池田勇人、佐藤栄作がいた。栄作とは生涯親交を結んだ。東京帝大哲学科に進学。在学中に長編戯曲「砂漠の光」を執筆。卒業後、春陽堂編集者に。国際文化研究所、プロレタリア科学研究所所員を経て、科学文化アカデミーを設立。昭和十二年から十六年にかけて「世界史話大成」全十巻、「日本世界主義大系」全十二巻を刊行。十三年から十八年にかけて「世界興廃大戦史」全百二十一巻中四十三巻を刊行。その間の十七年に財団法人日本世界文化復興会を設立し、東京上野でレオナルド・ダ・ヴィンチ展覧会を開催。終戦に際し「吾等かく信ず」を執筆配布し、陸海軍に「承諾必謹」を説き戦後復興の方向を示し、米ソ冷戦を予言。公職追放を受けるも、その後渋沢敬三等と財団法人文化建設会、地球文化研究所を設立。昭和二十二年、恒久平和確立のため資本主義と共産主義を克服する地球主義（グローバルイズム）を提唱。二十五、六年「地球の平和」刊行、三十一年から三十四年にかけて「ロシア大革命史」全十二巻刊行。昭和四十三年「未来学原論」刊行。山中湖畔に隠棲しながらも戦後の保守政権の外交政策に大きな影響を与え、「地球との対話」「聖人伝シリーズ」「地球世界芸術史」「地球社会変革史」「地球科学技術史」など旺盛に執筆。生涯、音楽を愛し、ピアノを弾き、三浦環や原智恵子、加藤登紀子らと交流し一千曲に及ぶ作曲と詩を書く。
昭和五十九年（一九八四年）九月一日、山中湖畔の家で死去（八十三歳）。

— 欧米列強による —
太平洋侵略史 全6巻
— 欧米列強による — 仲小路彰 著 西尾幹二 解説

【体裁】 A5判 上製カバー装 平均256頁
【価格】 全6巻揃 30240円（28800円+税）
各巻 5040円（4800円+税）



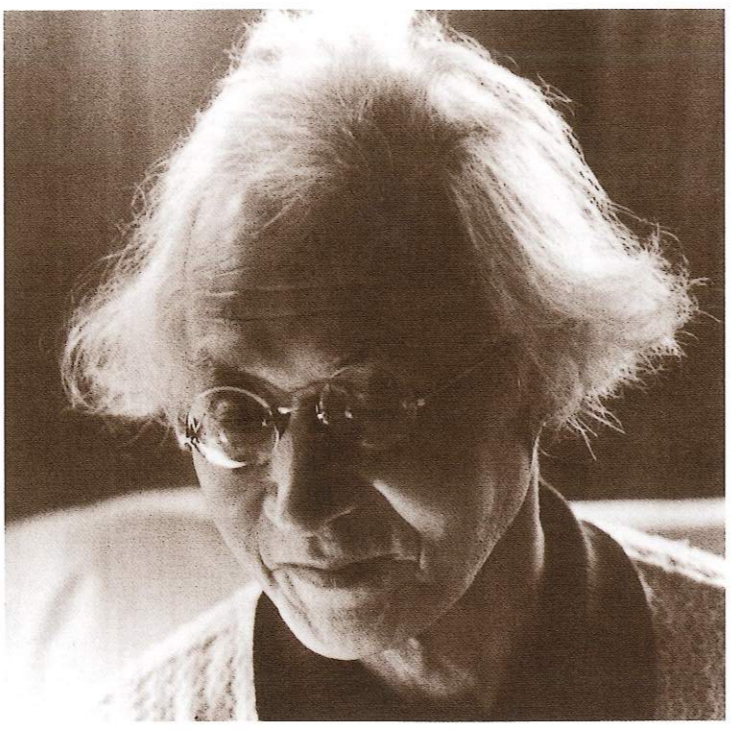
本書をお薦めしたい方々
歴史（近現代史）研究者、政治外交研究者、大学・公共図書館など

付録（第6巻）・仲小路彰年譜
仲小路彰全著作一覧他

国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 TEL 03-5970-7421 FAX 03-5970-7427
http://www.kokusho.co.jp e-mail:sales@kokusho.co.jp

— 欧米列強による —
太平洋侵略史 全6巻

仲小路彰 著
西尾幹二 解説



仲小路彰
（フランス・ハール氏撮影「懐想 仲小路彰」より）

欧米列強による
『太平洋侵略史』を推薦します
西尾 幹二

仲小路彰「太平洋侵略史」の目次をじっと見てみると、日本史に限定する通例の歴史家の狭い見方ではなく、世界全体で起こっている地球規模の出来事を視野に入れて、グローバルな俯瞰的な歴史の見方を取り入れていることが分かる。例えば、幕末史をイギリスによるオーストラリアの囚徒植民地政策と重ね合わせて論述している。南半球に足跡を残したジェームズ・クックに日本侵略計画があったことを告げ、吉田松陰を米側がどう見ているかに触れる。阿部正弘や水戸斉昭の事跡を語る筆は、同時にダーウィンの航海記を見落とさない。戦後の日本史家の書く明治維新史がいかに「鎖国的」で狭く、戦前の仲小路の叙述が、いかに相対化された広角レンズで練り広げられているかは、逆説でもなんでもない、戦前戦中の日本人が真に責任ある世界政策に立って生き、戦後の日本人が「マッカーサー鎖国」に閉ざされ、知的に衰弱しているからである。仲小路は、「世界興廃大戦史」全百二十一巻という、ひとりで世界の戦争の歴史を書ききる壮大な著述計画を企て、そのうち四十三巻を昭和十八年までに完成させた。この「太平洋侵略史」六冊本は、そのほんの一部に過ぎない。彼は決して偏狭な日本主義者ではなく、地球人類史の未来を見据えた総合人間学体系を目指し、戦後は、山中湖畔に隠棲しながら、終戦から佐藤内閣の頃まで、保守政権の政治外交に影響を与えた隠然たる存在であった。しかし、表に立つことをせず、孤独を好み、その寓居に他人が訪ねてくることを嫌う神秘的な哲学者で、限られた若者とのみ交流し、音楽を愛し、さながらスイスの山紫水明の地に飯食したニーチェのようである。戦争史以外の全生涯の著述は、膨大で、忘れ去られ、あるいは未刊行のままもあり、いよ再発見の秋が訪れたことは喜ばしい。

その著作二十二点を
GHQが没収、焚書となる!!
（没収本「GHQ焚書図書開封」の著者別冊数で第二位にランキング!）

国書刊行会

取扱店

申込書 ご注意後、お近くの書店へお持ちください。

お名前 _____ お電話 _____

ご住所 _____

1	ISBN978-4-336-05242-1	冊
2	ISBN978-4-336-05243-8	冊
3	ISBN978-4-336-05244-5	冊
4	ISBN978-4-336-05245-2	冊
5	ISBN978-4-336-05246-9	冊
6	ISBN978-4-336-05247-6	冊

国書刊行会
『太平洋侵略史 全6巻』

発刊にあたって

歴史哲学者・仲小路彰は、一般はむろん学界にもまだほとんど知られていない。彼は戦前、戦中に全百二十一巻に及ぶ「世界興廢大戦史」をひとりで著わそうと試み、その三分の一が刊行された。「太平洋侵略史」は、その一部であり、欧米列強によるアジア侵略・対日攻略の意図を明らかにするもので

あった。終戦直後、GHQは彼の著作のほとんどを没収・廃棄処分とした。仲小路彰は世界全体で起こっている地球規模の出来事を視野に入れ、複合的・重層的な俯瞰で歴史を叙述した。米占領下で消された貴重な歴史書を今ここに復刻し、仲小路彰という稀有な天才の仕事の一部を明らかにするものである。

「太平洋侵略史」全6巻目次

第1巻

- 第一篇 第十七世紀の西欧侵略
- 一章 南大陸への欲望
- 二章 豪州への道
- 三章 タスマン
- 第二篇 十七世紀後半より十八世紀の荒略
- 一章 イギリス海賊の活躍
- 二章 ダンピエル
- 三章 第十八世紀
- 四章 ジェームス・クック
- 五章 バウンティ号
- 第三篇 北太平洋の危局（以下各章省略）
- 第四篇 日本北方問題の悪化
- 第五篇 日本北進の先駆者
- 第六篇 日本攘夷論の指導者
- 第七篇 日本北進の実現者

第3巻

- 第六篇 豪州侵略の拠点奪取
- 第七篇 豪州囚徒植民地化
- 第八篇 豪州侵略の発展
- 第一篇 ベリー来航
- 一章 米国の野望の点火
- 二章 ベリー提督の遠征
- 三章 琉球占領の野心
- 四章 ベリー浦賀闖入
- 五章 久里浜交渉
- 六章 ベリーの退去
- 七章 米国大統領書翰
- 八章 香山栄左衛門の報告
- 第二篇 ベリー来航の危機対策
- 一章 阿部正弘の立場
- 二章 朝廷に奏上
- 三章 水戸斉昭の海防愚存
- 四章 対外政策の紛糾

第5巻

- 三章 江戸の緊急対策
- 四章 江川太郎左衛門の上書
- 五章 勝麟太郎の上書
- 六章 高島秋帆の建白
- 第三篇 ペリー第二回来航（以下各章省略）
- 第四篇 横浜会談
- 第五篇 日米会談の緊迫
- 第六篇 神奈川条約締結
- 第七篇 吉田松陰の投夷行
- 第八篇 下田における吉田松陰
- 第一篇 ペリーの対日謀略の進展
- 一章 ペリー函館渡航
- 二章 米人取扱向の覚
- 三章 神奈川条約付録調印
- 四章 ペリーの抗議
- 五章 ペリー交渉の上申書
- 第二篇 国内問題の緊迫
- 一章 阿部正弘の老中辞任問題
- 二章 京都の状況
- 三章 幕府の大艦製造
- 四章 民心の動揺
- 第三篇 国防論の昂揚（以下各章省略）
- 第四篇 英米露蘭の対日外交政策
- 第五篇 安政二年の情勢
- 第六篇 ハリスの渡来
- 第七篇 イギリスの豪州侵略の状況

第2巻

- 第一篇 英国日本侵略の準備
- 一章 英船の長崎暴行
- 二章 イギリス侵略の発展
- 三章 ラッフルスの日本侵略計画
- 第二篇 蘭学者の海防策
- 一章 対異国船布告令
- 二章 杉田玄白の北方政策
- 三章 高橋作左衛門の海防策
- 四章 シーボルト問題
- 五章 蘭学者ノ受難
- 第三篇 国防論の実現（以下各章省略）
- 第四篇 攘夷運動の指導力
- 第五篇 英米対日侵攻の海防策

第4巻

- 第三篇 ロシヤ軍艦の長崎侵入（以下各章省略）
- 第四篇 国防策の強化
- 第五篇 吉田松陰の出現
- 第六篇 ベリーに対する松陰の概言
- 第一篇 ベリーの琉球占領計画
- 一章 琉球占領の野望
- 二章 香港渡航
- 三章 琉球入港
- 四章 ベリーの琉球占領の決意と米国の態度
- 第二篇 日本国内の動静
- 一章 露使の応接始末上申書
- 二章 ベリー来航に関する落首

第6巻

- 第一篇 ハリスの強制的談判
- 一章 日米不平等条約の成立
- 二章 ハリス江戸出府の談判
- 三章 ハリス江戸出府
- 四章 ハリスと堀田との会見
- 第二篇 堀田正陸の外交政策
- 一章 幕府の諮問
- 二章 水戸斉昭の意見書
- 三章 堀田正陸の意見
- 四章 堀田ハリス第三次会見
- 五章 ハリスの手記
- 第三篇 日米通商条約会談（以下各章省略）
- 第四篇 日米会談の奏上
- 第五篇 未勅許の日米条約調印
- 第六篇 勅許降下
- 第七篇 尊皇攘夷の志士の憤激
- 解説 西尾幹二
- 付録 仲小路彰年譜
- 仲小路彰全著作一覽他

